

松江市立出雲郷小学校 6年2組実践

報告者 名前 上田 岳斗

1 単元名 ネット型ボールゲーム「テニピン」

2 単元の目標

・テニピンの行い方を理解するとともに、用具を使って自分の意図した位置にボールを返球したり、ボールを持たない時の動きを工夫して位置取りしたりして、自分にあったゲームをすることができる。

【知・技】

・参加者誰もが楽しめるゲームを行うために、ルールを工夫し、ボールを打ち返すための方法やボールを持たない時の動き、作戦などについて考え、それを伝え合うことができる。

【思・判・表】

・練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守り、友達と仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気をつけたりすることができる。【主体的に取り組む態度】

3 基盤 4 単元計画（全7時間）

次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）
1	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テニピンをする姿を見たり、テニピンをしたりして、課題を見つけ、個人のめあてを作ることができる。</li> <li>・テニピンをしている姿を見る。</li> <li>・テニピンをしてみて、課題を作る。</li> <li>・ラケットでボールを打ち、ボールを取ったり、打ち返したりして個人のめあてを作る。</li> </ul>	<p>【知・技】なりたい姿をイメージして、テニピンの行い方を理解し、課題を見つけ、めあてを作ることができる。（観察・ワークシート・発言）</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     みんなでコミュニケーションをとって楽しいテニピンをしよう                 </div>			
2	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○狙ったところにボールを打つための方法を仲間と協力しながら考えることができる。</li> <li>・ポイントねらい（壁あて）をして課題を出し合う。</li> <li>・課題を解決するための方法を考える。</li> </ul>	<p>【知・技】明確にした課題を解決するための方法を仲間と協力しながら考えることができる。（観察・発言）</p>
	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ラリーを長く続けるための方法を仲間と協力しながら考えることができる。</li> <li>・1対1のラリーをして課題を出し合う。</li> <li>・課題を解決するための方法を考える。</li> </ul>	
	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2対2のラリーが長く続くための方法を仲間と協力しながら考えることができる。</li> <li>・2対2のラリーをして課題を出し合う。</li> <li>・課題を解決するための方法を考える。</li> </ul>	

3	⑤	○これまで学習したポイントを意識してラリーゲームに取り組むことができる。 ・個人のめあてをチームで共有して、ラリーゲームのポイントを確認する。 ・2対2のラリーゲームを行う。	【主】【思・判・表】練習やラリーゲームを通して見つかった成果や課題を伝え合いながら、取り組むことができる。(観察・発言)
	⑥	○ポイントゲームについて知り、その特性に即して作戦や動きを工夫して取り組むことができる。 ・ポイントゲームのルールを知る。 ・2対2のポイントゲームをして課題を出し合う。 ・課題を解決するための方法を考える。	【主】【知・技】テニピンの特性を理解しながら、仲間と共にルールを守り進んでゲームに取り組むことができる。
	⑦	○これまで学習したポイントを意識し、自分でゲームを選んで取り組むことができる。 ・2対2のラリーゲームを行う。 ・2対2のポイントゲームを行う。 ・ラリーゲームかポイントゲームを選択して取り組む。	【主】【思・判・表】テニピンの特性を理解しながら、仲間と共にルールを守り進んでゲームに取り組むことができる。

## 5 授業の実際

※研究の視点を基にして、授業のようすや工夫について記載する。

- 導入では教員が実際にテニピンのゲームを行った。うまくラリーが続いている様子だけでなく、敢えてうまくいかない様子を見せることで、なりたい姿のイメージや技能面での個人のめあてを持つことができた。また、子どもの運動能力の差を考え、キャッチ、キャッチ&ヒット、ヒット&ヒットという段階ごとに練習を進めていくことで、課題を明確にすることができた。
- 練習段階では、きょうだいチームで見合ったり、タブレットを活用し、動画をとったりすることで動きのみえる化を図り、動きを言葉で確認しながら一人一人のめあてを明確することができた。
- 単元構成では、ラリーゲームを中心に設定し、一つ一つの動きに対して設定した個人のめあてを解決していくために、①課題の確認(共有)②ラリー③動きの振り返り(アドバイスタイム)④ラリーという流れで行った。ラリーゲームの流れを決めておくことで、見通しをもって活動を行い、一人一人が主体的に取り組むことができ、工夫や作戦など対話を通して交流していくことで人とつながる楽しさや仲間と協力して得られる達成感等の喜びを味わうことができた。

## 6 成果と課題

- ラリーゲーム、ポイントゲームを行ったが、自分で考えて主体的に取り組む姿が見られた。具体的には、明確にした自分たちの課題について解決方法を考えながら打ち方や動き方を工夫したり、作戦的なことを相談しながらゲームを行ったりすることができた。
- ウォーミングアップでは個別の練習を行っていたが、自分の課題に合わせた練習に取り組むことができた。
- ポイントゲームについては、ゲーム性をどのように持たせるのかを工夫すべきであった。